

藥事日報

月 水 金 発行

藥事日報社

東京本社 〒101-8648
東京都千代田区神田和泉町1
☎ (03) 3862-2141
FAX (03) 5821-8757
大阪支社 〒541-0045
大阪市中央区道修町2-1-10
☎ (06) 6203-4191
FAX (06) 6233-3681
購読料 半年19,764円
(税込) 1年36,234円

きょうの紙面

緊急避妊薬の調査研究

進捗に苛立ちも…②

希少疾患の課題理解へ

シンポ開催……③

早期からフレイル対策

ツムラ……………6

AI導入の動き広がる

臨床開発など…7

本号8ページ

天の川病院に出向で成果

緩和ケアなどの経験還元へ

大阪医薬大病院薬剤部

大阪医科薬科大学病院薬剤部は、昨年11月から約5キロ離れた枚方市の天の川病院（157床）に薬剤師出向を開始し、約3カ月で早速成果が出始めている。第1陣として主任クラスの40代男性薬剤師が出向き、天の川病院の薬剤業務を改善する道筋をつけた。今月から交代で出向元病院に戻り、緩和ケアが必要な患者を各領域で見つける仕組みの検討を始めるなど、出向先の経験を役立てようとしている。大阪府と連携して薬剤業務向上加算の算定を開始しており、それを原資に薬剤師の増員につなげる計画だ。

天の川病院は、慢性腎不全や透析を中心に循環器疾患、リウマチ膠原病、糖尿病などの診療に対応する中規模病院。薬剤師を確保できず、定員を下回る人数で病棟業務を手がけていた。

中央業務の効率化支援に着手。昨年12月以降は病棟業務を担当して薬剤管理指導業務等の件数増に貢献し、医師への処方提案なども積極的に手がけた。3カ月間

で現況を把握し、出向元病院での経験に基づき業務改善策を提案した。

3カ月の出向を終え、今月には別の薬剤師に交代した。これから出向先での経験を大阪医薬大病院の業務



の質向上に還元する作業が始まる。出向した薬剤師は、患者と向き合う期間が長い。天の川病院で、様々な領域の患者が緩和ケアを必要としていることに気づいた。癌患者の緩和ケアには力を入れていたが、他領域の患

者を見過ぎていた可能性があると、まずは見直しから取り組む計画だ。

大阪医薬大病院薬剤師副部長の西原雅美氏は、「慢性期の患者をどうモニタリングするのか、薬剤師の関わり方や見方が急性期とは

その視点を組み込み、様々な切り口で患者の状態を把握するスクリーニングツールの改善にも取り組み、成果を明らかにしたいと考えた。

天の川病院への出向は、今後も若手薬剤師を中心に3〜4カ月単位で交代しながら続ける。薬剤師の確保状況を踏まえ、年度単位で更新予定としている。

出向を開始した背景として、薬剤師を確保できない周辺地域の中小病院から大阪医薬大病院に薬剤師育成や地域への人材供給の役割を求める声が上がっていたことがある。同大病院側にも、採用した薬剤師を育成する上で、地域の病院で研修する機会を設けたいとの考えがあった。

同大薬学部の実務実習体制整備の観点でも、地域病院の参画や業務の質向上が欠かせなかった。同大の実務実習は基本的に、基幹病院と地域の病院のグループ実習で行われる。実務実習の指導薬剤師が存在する地域の病院は不足しており、野野の拡大が課題となっていた。病院全体でも地域の病院との連携強化を掲げており、薬剤師出向は方針に合致した。

薬剤業務向上加算の新設も後押しになった。同大病院の病床数は894床で、薬剤師数は非常勤を含め70人。増員が必要な中、退職や産休・育休による人員減を補う形で毎年約10人を採用してきたが、同加算の収入を原資に例年より数人増の採用が実現する見込みだ。

複数候補から、病院薬剤師の偏在指標が1を割り込む北河内地域の天の川病院を選んだ。出向の持続可能性を考慮し、距離の近さも決め手になった。在籍型の出向で給与体系に変化はなく、出向中の給与は出向先病院が負担する。今後、同大病院の薬剤師数が充足してくれば、中長期的には地域の複数の病院への薬剤師出向も検討する計画だ。

西原氏は「当院の薬剤師教育プログラムの中で、一度は地域医療を学べる機会を設けたい」と話す。出向によって地域の各病院の薬